



右◇ソファー廻り：ソファーに置かれた色とりどりのクッションが、リビングルームにリズム感を生み出します。

左◇ホール：曲線と色彩の重なりが美しく優しい雰囲気のあるホールに仕上がりました。



結婚し、家庭を営み、家族をつくる。  
この日常生活と家族史の中で培われた『絆』は  
長年、愛着があった家をリノベーションし  
リフォームしようと思いついた瞬間から、岐路に立つ。  
それまで、直視することがなかった各々の個性や  
想い、将来の具体的な計画など……。  
「家」を改造するという決断は  
家族の『絆』をもイノベーションする好機となる。

## 風水住宅を訪ねて

愛知県名古屋市 Y様邸

長年、暮らし慣れた我が家をリノベーションしようとする決断は  
家族の未来を創造するだけでなく、『絆』を再確認する行為でもあった。

**Q1** 『風水リフォーム』を実施することになったきっかけとは、何だったのでしょうか……。

6〜7年前のことになりますが、「押し花」を習っている先生のご紹介で、名古屋で行われた松永先生の講演会に参加したのがきっかけでした。当時は松永先生の話を聞いても、何か「外国語」で話をされているような印象で、深くは理解できませんでした。「住環境」がその家に住む人たちの健康や運氣にとって、とても大切であるということは直観的にわかりました。その後、娘たちが次々と大学を卒業して社会人となり、資金的にも少しづつ余裕ができました。また一方、「更年期障害」と思われる症状が辛い時期にもなり、「何かを変えたい」という願望が私の中では日増しに大きく膨らみ始めていました。

元々、「押し花」を習い始めたのも、以前に、娘から「何か習うといいよ」と言われたことがきっかけで、若い頃から花や自然を見たり、触れたりするのが好きだったことから、「展覧会」で押し花を見てその美しさに感動し、すぐに先生の門をたたき入門しました。

実はその先生が、松永先生に依頼してリフォームをされていたのですが、本当に過ごし易く、快適な住環境で、ご自宅に習いに行く度に、「いつか私もこのような家に住めたら……」と考えながら、想いを募らせていました。今から思うと、「人との縁」とは本当に不思議なもので、また、大切なことなのだと思います……。

家族で何回か相談をした結果、リフォームすることが決まりましたが、主人からは、この家を建てた大工さんに依頼するのが最善の策であると言われ、正直、悩みました。

「私にはリフォームを計画し、管理し、実行する力がない」と言われたような気持ちにもなり、主人に対して少し反発したい気分が芽生えたのも事実でした……。

私にとって「リフォーム」は、30年来の夢でした。また、家族の健康や幸福を考えれば考えるほど、リフォームすることの重要性とその責任がいかに重いものなのかということもわかっていきましたので、「お母さんが本当にやりたいのなら、最後までやり通したら……」と娘に言われた一言に励まされ、後押しされました。

**Q2** 『風水リフォーム』が終わり、どのような変化や体験がありましたか……。

リフォームの間、主人が一人で借家に寝泊まりをし、娘たちと私が家に残り作業の進展を見守っていました。その期間に気づいたことなのですが、私たち夫婦にとって、初めて深いコミュニケーションをとれたのが、この家のリフォームのことだったように思えます。私はそれ以前は、思ったことがあっても言い出せない性格でした。また、主人は何についてもとても慎重な人です。この個性の差があったからこそ、二人は夫婦になったのだし、ここまで来れたのだと思えます。

実は昨年、夫婦で四国を旅したときに、主人が一番尊敬している人が『空海』だったことがわかり、縁の深さをまた、感じました。

リフォーム後の感想は、大変良いものばかりです。毎月、先祖供養のためにお坊様に来て頂いているのですが、「良い家ができましたね」とお声をかけて頂いたときは、ホッと肩の荷が下りた思いがしました。また、大工さんが完成した家を見に来られて、「エエなあ」と言われた一言を聞いたときも、とても安心しました。

実父は、完成までの紆余曲折の間、私に様々なアドバイスくれたこともあり、「いい家ができて、本当によかったな」とねぎらってくれました。娘たちは、日曜日になるとオープン・キッチンでいろいろなものを作って楽しんでます。

台所のガスレンジの位置が、「悪い気」を燃やす場所にあると後になって聞き、「風水環境科学」の奥深さに、今更ながら驚いています。

私は家の引越しが終わった後は、文字どおり死んだように眠りました。その甲斐もあつてか、気がつくとも長年、悩まされ続けた病気もいつの間にか治っていました。主人が完成後の記念撮影のときに「終わり良ければ、すべてよし」と言った言葉に、この「リフォーム物語」のすべてが象徴されていると思っています。

私を支えてくれた娘や家族の思い、そして最後まで見守り続けてくれた主人の愛に包まれたこの家は、家族全員が安心して寛げる最良の場所となりました。

**Q2** 『リフォームされた家』に実際に住まわれるまでに、どのような変化や体験がありましたか……。

主人とも相談して、家を建ててくれた大工さんに、私が松永先生の建築事務所に依頼して創って頂いた簡単な概要設計図を見せたところ、「この設計図のように家をリフォームすることはできない」と言われてしまいました。また一方では、松永先生からのアドバイスで、秋には着工する行程で物事を進めるのがベストである、とお話を聞いていたのですが、大工さんのスケジュールは合わず、予算的にも厳しいものでした。そのような状況下で、私の気持ちは徐々に半信半疑にもなっていました……。

気を取り直して主人と話したところ、「まずは部分的なリフォームから始めたら……」と言われ、やるならば、一回で済ませようと考えていた私とは真つ向から対峙することになり、夫婦関係にも一時、暗雲が立ち込めたのも事実です。

私が『風水』に興味をもつようになったのは、実家では「家相」や「方位学」などを当たり前のようによく考える環境で育ったせいも、ごく自然なことでした。

『風水』では、特に「水周り」や「玄関」、「動線」を重視しますが、リフォーム部分すべての中に入っていたため、私は一回ですべてを変えたいと考えていました。概要設計図を初めて見たとき、最高の提案だなと感じていましたし、私が理想と想っていたものがすべて入っていました。

いよいよ詰め段階に近づいた頃、「押し花」の先生が心配して、「本当にできるの……」と尋ねてきました。主人の基本的な考え方は、信頼関係がまだできていない間柄で、予算案も不明なものを進めるのは決して得策ではない、ということでした。初めて接する主人のもう一つの素顔に、私も不安感で一杯でしたが、言い出せないうままでいました。

そのような折、施工者の方々と「見積り」の打合せが行われる日程が出てきました。ちょうど私が旅行中であったことから主人が会ってくれることになりました。内心、とても気掛かりでしたが、帰宅してきて、それは安堵に変わりました。

主人は、その方々との面談で見積りや概要設計図を理解し、最後には納得してくれていたのです。



上◇キッチン：ダイニングと一体感があるキッチンには、自然と人が集まります。



上◇リビング：オレンジ色の曲壁面が内側に広がるリビングは、部屋全体にアクセントをつけ、楽しさと優しさを演出しています。

## 風水インタビュー FENG-SHUI Interview